

外国人は泊まれない中国の安宿

● 放 眼 日 中



先日、久しぶりに行った中国・深圳で、1泊150元(約2500円)

と表示されている宿に行き、「今晩部屋はあるか」と聞くと「ある」というので、パスポートを取り出すと「うちは外国人、ダメなんだよね」と残念そうに言いながら、隣のホテルを紹介された。隣は高層ビルで、24階のこぎれいな部屋が1泊300元。何と宿泊料金は2倍に跳ね上がってしまった。

昨年の終わりあたりからだろうか。中国を旅していて、駅前などで安宿に泊まろうとすると「外国人は泊められないよ」という答えが返ってくる。それが多くなってきた。それが今年になると中国全土に広がり、何と事前に有名旅行サイトでネット予約していた宿に宿泊を断られるという事態まで起きてきており、友人数人がこの被害に遭っている。これ

ではおちおち自由な旅をすることもできない。

現地の知り合いに、宿泊できるか事前に確認して予約を取ってもらった。状況になつてしまった。ただ、これは出張者などが泊まるような中高級ホテルの話ではなく、あくまで安宿のこと。筆者のような格安旅行やバックパッカーと呼ばれる安い旅を志向する人々にとつては、何とも難儀な状況になつている。

一体なぜ、そのようなことが起きているのか。聞いた限りでは「もとと安い宿は、外国人を泊めるためのライセンスを取っていない」とのことだった。非合法なら仕方ないが、それならなぜ今までは泊まれたのか。「それこそ中国だよ。規則があつても徐々に緩んでいき、特に指摘する人もいなかったから」と説明された。要は、安く泊まりたい外

国人と宿泊客を確保したい宿の利害が一致、当局も黙認してきたというわけだ。

それがなぜ、急に泊まれなくなつたのだろうか。日本のマスコミなら「中国政府による外国人排除だ」と書きたいところかもしれない。ただ、その辺の事情に詳しい中国人に聞くと「それは外国人の排除というより、むしろ中国人への監視強化だ」と語気が強めた。習近平政権になり言論が統制されている、との話はよく聞くが、テロ対策と称して少数民族などの移動に対して監視を強めているようだ。

全体的に、中国人の移動に関してもきちんと確認することになり、従来、身分証を忘れても泊めたり、1人の身分証で数人を泊めたりした緩々の制度を「一対一確認」で締め直した。これは、携帯電話などを契



コラムニスト・アジアウォッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

約する際の実名制度の厳格化など同一現象である。実際、ホテルでは宿泊客をオンラインで登録しているが、そのラインは公安に直結しているとも聞く。もし不正に宿泊させて当局から厳しいお咎めがあるとなれば、宿側も宿泊客を逃しても断らざるを得ない。

確かに昨今の中国では、テロ事件も起きている。地方での暴動も報道されている。当局とすれば、治安維持のため従来のルールを厳格に適用しているだけで、むしろ外国人旅行者の安全確保の観点からもよいことだ、ということかもしれない。ただ、この措置から透けて見える中国の置かれていた状況は、決して安定しているとは言えない。われわれ外国人が安全に安い旅ができる中国になつてほしいと密かに願っているのは、筆者だけではない。